

## 57 春日大社のナギの純林 ー国指定の天然記念物ですー

「夏休みが終わったのに暑いなあ。新体操の練習に打ち込んでた8月のほうが涼しかったよ」そんな奈緒さんのつぶやきが聞こえてくるようです。まだまだ暑い日が続きそうですから、ちょっと涼しさを感じてこようと奈良公園に出かけました。

近鉄奈良駅から東へ、公園に入ると少しは涼しいかなという程度でしたが、大きな杉の木が立ち並ぶ春日大社の参道は十分に涼しさを感じさせてくれました。木立の間から見える飛火野一带とは気温が大分違うようです。本殿にお参りしてから上の祢宜道（かみのねぎみち）を南に歩きます。若宮神社や夫婦大国社から少し行くと、ナギがうっそうと茂り、一带はひんやりとしています。

ナギは、裸子植物、マキ科、ナギ属の植物です。葉は写真のような形ですが、葉脈は平行脈で針葉樹のなかまです。「こんな形の葉っぱはたいてい網状脈だよ」って思うでしょう。あまり見かけないナギが春日大社の境内には非常に多く、純林（1種の樹木でできている林）になっている



ところがあります。これは珍しいということで大正12年に国の天然記念物に指定され、このことを説明した立て札がありました。

奈良公園のナギは、もともとここに生えていたというよりは、1200年ほど前に、南の地方から献木されたものだそうです。

でも、どうしてこんなにたくさん増えたのでしょうか。その理由は次

のように考えられています。

① 奈良公園のシカが食べないから

シバのほかイチイガシなどの葉を食べるシカですが、ナギの葉は食べません。同じような植物にアセビがあります。これも奈良公園に多い木です。最近はあまり見ないのですが、昔は、金網を巻いた木を見ました。シカの食害から幹を守るための方法でした。でも、ナギにはこんな必要がないのです。

② ナギの林はうす暗いから

たくさんの葉を茂らせるナギが林を作るとうす暗くなります。多くの光を必要とする他の植物は入り込めなくなってきます。

③ 他の植物の成長をじゃまする物質を持っているから

ナギの根や地上に落ちた樹皮からしみ出してくる物質には他の植物の成長を抑制するはたらきがあります。「ここは自分の土地だ。他の木はここに来るな」というわけですね。こんな現象をアレロパシーと言います。

④ 春日大社ではナギが神事に使われたから

サカキ（榊・文字通り神様の木です）のかわりに神聖な木として使われてきました。

いろいろな理由が重なって、こんな貴重な樹林ができたのです。

以前、春日大社の万葉植物園に案内したとき、とても喜ばれたというおばあちゃんと出かけてはいかがですか。

(平成 23 年 9 月・中学校 3 年生の奈緒さん宛て)

## スポットの案内

春日大社は、JR 奈良駅、近鉄奈良駅から市内循環バスで「春日大社

表参道」下車が便利です。でも、近鉄奈良駅から公園の中を、いろいろな木を観察しながら歩いて行くといいでしょう。そして、アスファルト、芝生、砂利道、それぞれの感触を楽しんでください。

### 理科のワンポイント「アレロパシー」

植物がある種の化学物質を出して、他の植物の邪魔をしたり、逆に成長を促したりするはたらきのこと「他感作用」と訳されています。

代表的な例の1つがセイタカアワダチソウです。これは空き地などにすぐに生えてきて一面をおおいつくします。その理由として、セイタカアワダチソウが他の植物の生育を妨げる物質を出すのだと考えられています。動物と違ってけんかしたり噛みついたりしない、平和な暮らしをしているように見える植物なのですが、なかなか生存競争は大変なのです。

茶畑で刈り取った枝や葉を畝の間に敷いておくと草が生えにくいということは昔から茶農家では知られていたそうです。茶の葉に含まれるカフェインが他の植物が芽を出す邪魔をするという最近の研究結果から「なるほど」とうなずける話です。

こうした物質は、葉から流れ出たり、根からしみ出したり、あるいは、落ち葉や刈り取った枝から放出されるなどの場合があるといわれています。こうしたことを農業にうまく使えば、作物に害を与えないで雑草の成長を妨げることができるのではないかと研究されています。「草で草を退治する」という方法、これはアレロパシーの応用なのです。昔からこうしてきたという方法に科学的な裏付けのあることがもっともっと見つけ出されていけば、農林業の発展につながっていくことでしょう。